編輯後記

□赫奕たる大戰果の後に政治、經濟、文化、これらの構策が次々に爲されつゝある。寔にこれは慶ばしい。世界的文化の完成――國家が理想するところはそれである筈である。國家と國家との戰も亦その完成への一過程たるに過ぎまい。日本精神を基調とした藝術の擁護と進展とはその完成への一つの寄與に外ならない。

□頃者、偶々所謂規格品と名づけられる陶磁の食器を見る。その外面內面共に白一色、それへ安價なコバルトの線がたゞ一本、周邊のあたりに引かれてあるだけのものであつた。これらの日用器物が統制を目標として全般の用途に擴大されると聞く。大衆や團體の爲には恰好かも知れぬが、その簡易さから來る感じは、しらじらした味氣無さだけである。太古の土器一つにも彌生式から祝部への進化を見る。我等の遠き祖先は單なる日用品をさへ藝術化したのであつたかゝる傳統を、傳統的精神を今日もなほ繼承する我等を、我等自身まことに無上の光榮とする。

□戰時に臨める國民の趣味が質實剛健たるべきことは素より望ましいことである。が、外面的に質實剛健ならざるが故に、直にそれを頽廢的と斷じ、危險視する如きはどうであらうか。人間生活に於ける趣味てふものは、元來そのやうに窮屈な片意地なものではない筈である。時折耳にするかゝる一方的な論議は、恰も敵性國家の語學乃至文學宗教を學ぶの要無しと主張する一部頑迷固陋な人士の愚論と相距ること遠からぬものである。

□同人會を四月二十九日ガスビル學士會倶樂部に開催した。太宰博士始め武智、樋口、林、大西、森、それに新同人中より吉永、辻部、齋藤の三氏出席數時間に亘り懇談した。

□前號は三、四兩月を合併し、發行遲延を取戻す手段としたに拘らず、五月號も豫定とは大分喰ひ違つた。然し今後とも內容の充實に更に努力する覺悟で臨んでゐる。一層の御支援と御鞭撻を希ふ次第である。

（林、大西、森）

淨瑠璃雜誌 第四百九號
（昭和十七年五月號 毎月一回三十日發行）

本誌定價
一部 金五十錢
半ケ年 金三圓
十二冊 金五圓

○御注文は一切前金の事
○雜誌發送を以て領收證に代ゆ
○外國送りは一冊に付郵稅十錢を要す
振替は浪花名物淨瑠璃雜誌社。
口座大阪二三九二八番

廣告料

普通一行	金三十錢
二等一頁	金十二圓
一等一頁	金二十圓
特等一頁	金三十圓

○特等は一頁以下の需に應ぜず六回以上の特約には割引す
○製版を要する時は其實費を申受く
○廣告料は總て前金の事
○一行九ポイント活字

發行兼編輯人 大阪市西成區千本通二ノ三二 樋口虎之助
印刷人 大阪市西區江戸堀下通四ノ三〇 坂口秀吉
印刷所 大阪市西區江戸堀下通四ノ三〇 高尾印刷所
發行所 大阪市西成區千本通二ノ三二 淨瑠璃雜誌社